

教育振興基本計画のフォローアップ（FU）

- 第4期教育振興基本計画において、指標の活用等により、各目標の進捗状況を検証、評価することとし、同計画のフォローアップを実施するとともに、政策評価との整合性を持って実施するよう連携を進めることの重要性を規定（参考1）

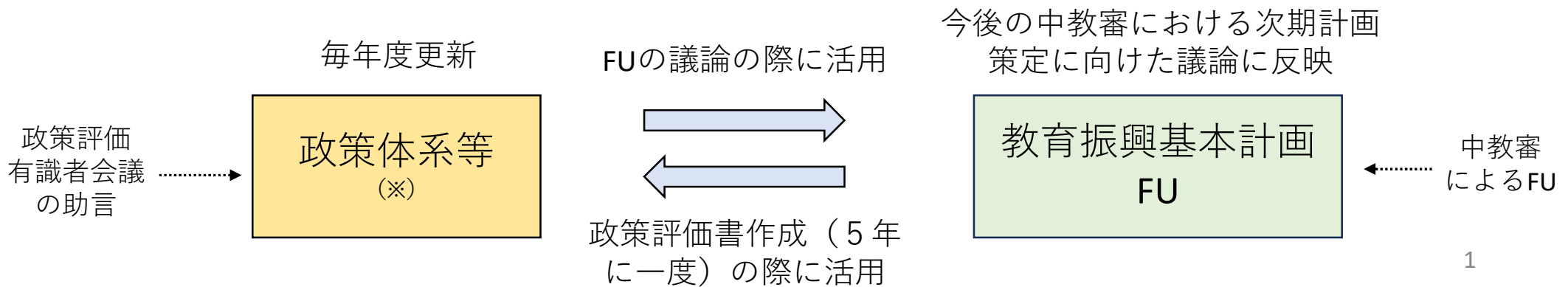


政策評価

- 政策評価については、昨年度、従来の画一的・網羅的な評価から、実際の政策立案プロセスに合わせた評価への変革に向け、各種基本計画の柱建てに沿った「政策体系等」（※）を試行的に作成。
- 「政策体系等」の更新にあたっては、政策効果の発現経路の明確化等を通じて、改善（Action）に資する評価（Check）を行えるものとすることが重要であり、具体的には、測定指標の実績から達成目標の達成度を測り、施策の具体的な改善としてフィードバックができるよう、主として以下を重要な視点として、政策評価有識者会議委員の助言も得て検討を実施。

- 更新作業を政策の階層構造（政策目標・施策目標・達成目標・達成手段）を改めて整理する契機とする。
- 当該階層構造を踏まえて、施策レベルの改善に生かす観点から、達成目標・測定目標が適切に設定されているかを再確認する。
- 測定指標を更新し、施策レベルの改善の要否を確認する。

（※）政策目標・施策目標と事業の間をつなぐ達成目標・測定指標を追加して、それぞれの階層構造やつながりを再整理したもの。教育振興基本計画だけでなく、他の各種基本計画においてもそれぞれの柱建てに沿って作成。



教育振興基本計画

| 教育政策の目標 | 基本施策（例） | 指標（例） |
|-------------------------------------|---|--|
| 1. 確かな学力の育成、幅広い知識と教養・専門的能力・職業実践力の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ○個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実 ○新しい時代に求められる資質・能力を育む学習指導要領の実施 ○幼児教育の質の向上 ○高等学校教育改革 ○大学入学者選抜改革 ○学修者本位の教育の推進 ○文理横断・文理融合教育の推進 ○キャリア教育・職業教育の推進 ○学校段階間・学校と社会の接続の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・OECDのPISAにおける世界トップレベル水準の維持・到達 ・授業の内容がよく分かる、勉強は好きと思う児童生徒の割合 ・将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合 ・高校生・大学生の授業外学修時間 ・PBL（課題解決型学習）を行う大学等の割合 ・職業実践力育成プログラム（BP）の認定課程数 |
| 2. 豊かな心の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ○道徳教育の推進 ○発達支持的生徒指導の推進 ○いじめ等への対応、人権教育 ○児童生徒の自殺対策の推進 ○体験・交流活動の充実 ○読書活動の充実 ○伝統や文化等に関する教育の推進 ○文化芸術による子供の豊かな心の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合 ・人が困っている時は進んで助けていると考える児童生徒の割合 ・自然体験活動に関する行事に参加した青少年の割合 |
| | | |

政策目標と施策目標は第4期教育振興基本計画に沿って整理

第4期教育振興基本計画に記載の指標を基本としつつ、政策の進捗状況把握のために参考となる情報を追加

追加記載

追加記載

政策体系等

| 政策目標 | 施策目標 | 達成目標 | 測定指標 | 達成手段 | 達成手段が達成目標の達成にどのように貢献するか |
|-------------------------------------|---|---------------------------------------|---|---------------------------------|--|
| 1. 確かな学力の育成、幅広い知識と教養・専門的能力・職業実践力の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ○個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実 | <p>施策目標を実現するために、達成すべき具体的な目標を簡潔に記載</p> | <p>達成目標の達成状況・進捗状況を具体的に表し、施策レベルの改善に活かすことができるアウトカム指標を設定</p> | <p>各達成目標を実現するために実施している活動を記載</p> | <p>それぞれの達成手段がどのように達成目標の達成に貢献しているかを記載</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> ○新しい時代に求められる資質・能力を育む学習指導要領の実施 | | | | |

Ⅲ. 今後の教育政策の遂行に当たっての評価・投資等の在り方

(教育政策のPDCAサイクルの推進)

- 各施策を効果的かつ効率的に実施するとともに、教育政策の意義を広く国民に伝え、様々な社会の構成員の参画の促進等を図るためにも、目標の達成状況を客観的に点検し、その結果を対外的にも明らかにするとともに、その後の施策へ反映していくことで実効性のあるPDCAサイクルを確立し、十分に機能させる必要がある。

(教育政策の評価・改善段階)

- 政策の評価段階においては、指標の活用等により、各目標の進捗状況を検証、評価する。後述の目標16も踏まえつつ教育振興基本計画のフォローアップを実施するとともに、政策評価との整合性を持って実施するよう連携を進めることが重要である。
- 政策の評価に当たっては、関連の深い複数目標間で達成状況を比較したり、相関関係を分析したりするなど、目標横断的な視点からの分析にも留意する必要がある。
- 政策の評価・分析にとどまらず、必要に応じて政策運用の改善や政策手段の入替えを行う等、より効果的・効率的な施策の実施へと改善を図ることが重要である。 その際、過去の事例にとらわれず、柔軟に見直しを行うことが重要である。 さらには、次期の教育振興基本計画につなげることで、不断の検証改善サイクルの確立を図ることが必要である。
- 政策の評価に当たっては、同種の評価や調査等が重複し、施策担当や教育現場の負担が過度に生じることのないようにすることが重要である。また、調査内容の見直しを含め、適切なデータ収集に努めることが必要である。

(参考2) 政策体系等についての有識者会議委員からの主な助言概要

共通事項

※教育振興基本計画のほか、科学技術・イノベーション基本計画、スポーツ基本計画、文化芸術推進基本計画に沿って、それぞれ政策体系等を整理、下記は共通事項としての助言

(階層構造)

- ・ 施策の目標や指標が期待されるところ、個別の事務事業レベルの記載のものが見られる。施策目標から達成目標、達成手段までのロジックを検討・整理してから達成手段を実施するのが適切。達成手段によって施策レベルでどのような変化を起こすのかを意識して、達成手段の立て方の改善にもつなげてもらいたい。

(達成目標)

- ・ 達成目標は行動目標ではなく、政策介入した結果としてターゲットがどう変わるのかというアウトカム表現にすべき。
- ・ 達成目標が具体的でないものについては、達成手段を紐づける前に、達成目標をより具体化し、整理すべき。

(指標)

- ・ 指標は改善・意思決定に生かせる意味のあるものにすることが重要。
- ・ 指標は達成目標の達成状況を把握するものとなるが、（アウトカムの達成に他のアクターの影響が大きい場合や施策の実施を広げていくことこそが重要な段階の施策など）施策の状況によっては、アウトプット指標を併記することもありうる。
- ・ 1つの指標による表現は非常に難しく、偏りが生じ易い。全体像が分かるような調査等を活用することも検討してはどうか。
- ・ 記載ぶりに粒度のばらつきや重複が見られる。他方で、達成手段の在り方が異なるため、ただ統一すればよいというものでもない。
- ・ 指標の出典を追記すべきではないか。

(政策評価と基本計画)

- ・ 評価書の作成は、次期基本計画に反映できる時期に合わせて実施すると良い。そのためには、長期的な複数年度の評価もあり得る。
- ・ 政策評価の有識者会議からの助言を踏まえ、課題や指摘を議論・共有することで、次の基本計画に向けた論点の整理にも繋がる。

(その他)

- ・ 施策の数がかなり多いため、特に重点的に取り組む視点が明らかになると、評価についてもより議論しやすいのではないか。

個別分野（教育）

- ・ 好事例のモデルを周知することにより取組が共有・拡大していく前提の下で指標が立てられている部分が比較的多いが、周知すれば共有・拡大されていくのかという点は、十分に明らかになっていない。むしろ、各大学でのインプットや、それぞれの文化や文脈の影響を受けた上で実践されるかどうか重要であり、どの程度広がっているのか、広がらない場合はなぜ広がらないのかといった要因を検証することも、今後重要となるのではないか。